

坪田高濃度地区で一時滞在

ぬぐえぬ不安抱えながら

問題解決のため全島民の理解と支援を



阿古に続いて坪田高濃度地区でも2ヵ月間の一時滞在事業が始まった。島外在在者に対しても船の料金割引がされるようになったが、その他経費の問題などがあり、住民の不安はぬぐいきれていないようだ。

7月、都営住宅で暮らす在京島民のお宅を訪問した。坪田高濃度地区に家があるAさん。「島の家を残していずれは帰島したい。時々島に行くが、

港区でも説明会

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

- 第13回世話人会開催
日時：9月27日(土)
午後6時30分～8時30分
会場：喫茶室ルノアール 会議室(巣鴨店)にて
- 「及川先生の第8回健康講座」開催
日時：9月3日(水)
午前9時30分～11時30分
会場：神着老人福祉会館
内容：①島の健康問題
②高濃度地区問題
及川裕子・久保恭子先生
- ご寄付のお願い
ご協力お願い致します。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク
事務局：あすなる保育園内
住所：〒173-0005
東京都板橋区仲宿 25-6
電話・FAX 03(3963)5697

在京の子どもたちも夏祭りに参加(7月20日、牛頭天王祭の子ども神輿)

交通費がかかり年月が経つにつれて段々と足が遠のいている。山には木がなく崖崩れもおこっている、行く度に身を削られる思い。何とかしてほしい」とAさんは話した。

坪田高濃度地区では9月と10月、2ヵ月間の夜間を含む一時滞在事業が始まった。この事業の説明会は島内と、8月6日に港区の島嶼会館で村が開いた。三宅島ふるさとネットも電話で参加を呼びかけ、伊藤奈穂子事務局長は代理で出席した。役場の説明に対して在京島民から質問や意見が出されたが、滞在期間中の貨物の運賃は支援できな

い。高濃度地区の崖崩れについては、今年から事業が始まっている。宿泊が難しい方には避難施設の利用が薦められた。

船代の割引は実施に

船の料金の割引はできないかという要望に対して役場が東海汽船に交渉。8月18日ふるさとネットが役場に電話で問

ご寄付のお願い

ふるさとネットは結成から4年目を迎えました。みな様のご寄付により幅広い様々な活動を続けることができています。心から感謝致しております。

齢で孤立している方、様々な悩みや要望を抱えている方がたくさんいらっしゃいます。今後、1人でも多くの人に被災地の状況を伝え、活動を強化していきたいと考えています。改めてみな様にご寄付のご協力をお願いします。

島でボランティア

島内各地で取材も実施

向上高校の新聞委員の12人が夏休みを使って三宅島でボランティア活動を行った。この面ではその状況を掲載するとともに、高濃度地区の問題などに関し、高校生が取材をして書いた記事を掲載する。



在島者のお宅で納屋の整理



2年ぶりの草刈り

以前使っていたベッドなどがあつたが、4人が泊り込みで二日間作業をしたことで、かなりのものが

今回向上高校の生徒が活動を行ったのは、島で生活する方のお宅3軒と

未帰島民の方のお宅2軒だった。在島者のお宅では家の中や納屋の整理などをして、高齢者が進む島

者の一人暮らしが増えていて、そのようなところに手が回らないケースが多いようだ。その中の一軒は、昨年ご主人が亡くなり、一周忌のために家の片づけをしたいと思いますという高齢の婦

在島 未帰島合わせて5軒で活動

納屋の片づけ 草刈りなどを

「火山と共存」を実感

3年 相澤春歌



私が初めて訪ねた三宅島で感じたことは、自然の美しさです。長

太郎池で見た鮮やかな色彩の熱帯魚や珊瑚、様々な場所に出会ったアカコッコなど島の豊かな自然を実感しました。

また、1983年の噴火で溶岩に埋まった旧阿古小学校の校舎などからは、噴火の凄まじさが伝わってきました。そして島の人がこのような火山と共生してきたのは、すごいことだと感じています。

許可を得て登った雄山の中腹にある牧場の様子を見て、ガスのすごさもわかりました。しかし、それでも高濃度地区の方々も噴火から8年間も家を直し続けているのは、火山とつきあってきた歴史があるからだと思います。

高濃度地区の対応は、このような背景を考えると決めなければならないと思いました。

片づいた。一行が島を離れる際に、ご婦人は波止場まで見送り、別れを惜しんでいた。

島の思い出話も

未帰島の方のお宅のうち一軒では、大きな病院に通う必要があるため帰

自然の素晴らしさ満喫

伝えることが支援に

島を訪れた高校生は、ボランティア作業の移動中には、83年噴火で溶岩に埋まった阿古地区の様子などを見た。

また、島の自然の素晴らしさを実感し、それを伝えるのもボランティアの一つということ、帰

島を果たせていないご主人が、一行の訪問に合わせ島に戻り、事前に庭に生えた竹の刈り取りを実施。高校生はその片づけを行い、終了後にはご主人から島で暮らしていた頃の思い出話を聞いた。

もう一軒のお宅では草刈りを実施、2年間帰宅してないことから、庭の草は背丈ほどに伸びていたが、一日がかりで作業をした結果、きれいに片づいた。

その状況は写真に撮影され、ふるさとネットの伊藤奈穂子事務局長により、本人に届けられた。

島をする最終日は午前8時過ぎから、長太郎池で海水浴を行い、色とりどりの熱帯魚を観察。その後は自然ふれあいセンター「アカコッコ館」を訪れ、レンジャーから、島に住む生物や火山について話を聞いた。高校生たちは、予想以上に豊かな自然にふれ、驚きをおぼろげな様子だった。



取材に応じる寺澤さん(左)と菊地さん

向上高の新聞委員

高齢者宅などの片づけ

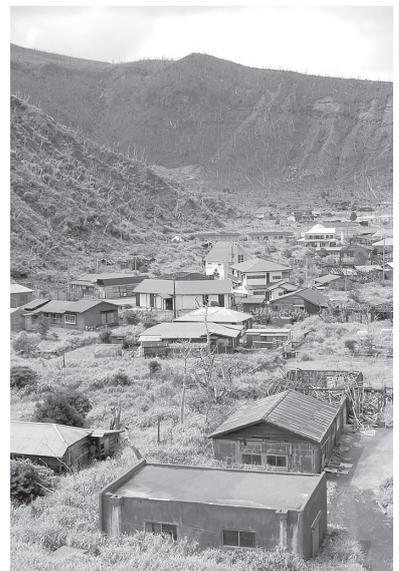
高濃度地区問題

めど立たぬ恒久帰宅

行われていない救済処置

三宅島には、現在阿古と坪田の2カ所に高濃度地区がある。阿古地区では昨年7、8月と今年の3月

8月に一時滞在を許可、坪田地区でも9、10月に同じく一時滞在が実施されるが、まだ自分の家で恒久的に生活できる目途は立っていない。噴火以前、この地域に住んでいたのは128世帯。すでに自分の家に帰



崩れた家も目立つ坪田高濃度地区

るのをあきらめている人もいるが、村営住宅や島外に住み、家の手入れをしながら帰れるのを待っている人も多い。このような人に対しては固定資産税の救済処置などは行われているが、例えば村営住宅の家賃を

引き下げるなどの対応はとられていない。高濃度地区にある家を直す費用も自己負担で、これまでに多額の費用をかけた人もいて、高齢化が進む中で、その努力は限界に達しているようだ。一時滞在に関しては、検診が無料で行われるほか、住民票を移しているも船代の島民割引が受けられるような配慮はされる。しかし、引越しや今住んでいる家を維持する費用などに対する支援はないため、一時滞在をする人は、かなりの負担をしなければならぬ状況になる。

「3人以上の配慮は」

村の対応を取材

三宅村役場を訪ね、高濃度地区に家がある人への対応などについて取材を行った。

村では、避難指示が解除された当初、100軒以上の村営住宅を建て、高濃度地区に家がある人を優先的に入居させてきた。この数は、避難前の世帯数を考えると、十分な数だったという。

そのほか、島に戻らない人に対しては、移転先の自治体に、公営住宅への優先入居を依頼するなど、できる限りの対応をしてきたという。

島には、高濃度地区のほかにも、泥流などで家を失った人がいるので、公平をきすためにも、これ以上の配慮はできないという。

また、一時滞在に関しても、それを要請しているわけではないので、引越しや家の維持などの費用は自分で負担すべきと考えているようだ。

「我々の生活を見て判断を」

限界に達している住民の努力

坪田の高濃度地区に家がある寺澤晴男さん(70)と菊地忠男さん(73)は、「今すぐに高濃度地区の人を家に帰さないで、これまで家を直してきた我々の努力が無駄になるだけではない、島全体がだめになる」と話した。

坪田の高濃度地区に家が300万円以上の費用をかけてきた。菊地さんは「高濃度地区といっても常にガスが滞留しているわけではありませぬ。立ち入り制限の判断をしている学者は、我々の生活を見ていない」と話す。また、村営住宅に住む寺

澤さんは「昨年亡くなった母親を長年住んだ家から送り出せなかったことが悔しい」と言った。また、村の対応に関して、「確かに被災をした人はたくさんいますが、自分の家に戻るかどうか選択ができた人と、条例で帰りたくても帰ることができない高濃度地区の人は違います。村は、村営住宅の家賃を無料にするなどの配慮をするべきです」と語った。

また、一時滞在に関しても、それを要請しているわけではないので、引越しや家の維持などの費用は自分で負担すべきと考えているようだ。

鶴吉さんプロフィール

- 出身：東京都
- ・6歳の6月6日花柳流入門、花柳流師範の資格取得後、花柳鶴吉の芸名で東宝芸能、コマプロダクションにてプロ活動開始。
- ・2006年デヴィ・スカルノ婦人主催『花と宝石の饗宴』にゲスト出演
- ・年間行事として、屋形船の会、鶴プロゆかたまつり、浅草公会堂等出演多数

島への気持ち届けたい

鶴吉さんがチャリティーショー



浄瑠璃の余念がない鶴吉さん
人形文化の余念がない鶴吉さん
や江戸文化の余念がない鶴吉さん
歌舞伎の研究にも余念がない鶴吉さん

「日本の花柳界をたくさんの人に知ってほしい」また「踊ることによって皆さんを励ましたい」と話

ふるさとネットとの出会いにより、在京島民の存在を知った舞踊家の鶴吉さんは、自分の踊りが励みになればと考え、11月15日に大田区民ホールでチャリティーショーを開催する。ショーでは、三宅の困難な現状などの近況報告も行われる。

【京町さん練馬区で震災復興について話す】

8月23日(土) 18時～20時、練馬区立光が丘第3小学校で「震災復興についての話を聴く夕べ」というイベントが練馬区防災課主催で行われました。ふるさとネットの協力者である女優の京町さんが神戸や三宅島の被災地の状況などについてお話をしました。

炊き出し食の試食もあり、たくさんの方が参加しました。また、参加した方に「三宅島新報」も配られました。

【ご寄付者名】

(6月16日～8月20日)
高橋栄一様、吉野文雄様、T様、吉岡薫様、浅井美子様、佐藤宗ノ子様、M様
ありがとうございます。

「がんばれ三宅島」(参加無料)を開催する。開場16時30分、開演17時30分のショーのオープニングは、威勢のよい「よさこいソーランの踊り」。その後は舞踊に加え、鶴吉さんの四季を表現した衣装や早着替え、軽妙なトーク

鶴吉さんは、昨年2月1日に板橋区で行われたふるさとネット主催の「三宅島 在京島民支援板橋の集い」に出演したことで、島との関係を持つた。その際に故郷へ帰れないお年寄りがいることを知り、自分が踊る

などが楽しめるステージが続く。演歌歌手や三味線奏者などのゲストが登場するほか、ショーの中盤にはふるさとネットの事務局があるあすなろ保育園の保育士たちによるダンス「あすなろコナー」を実施。その演技のあとには、三宅島在京島民からの訴えなども行われる予定だ。

また、会場のロビーでは島の特産品が販売されるほか、義援金の募金箱も設置される。

9条を考える浅沼氏追悼集会

10月10日 お茶の水にて開催

浅沼稲次郎没後50年記念平和大会実行委員会のつくりだした2010年までの間、連続集會を開くことが決められた。

今年、「憲法9条を考える浅沼稲次郎追悼集会」が10月10日午後6時から総評会館(お茶

の水駅下車 ニコライ堂はす向かい)で開かれる。内容は、「今、憲法問題を考える」のテーマでシンポジウムを行う。

パネラーは、土井たか子、野中広務(元官房長官)、横路孝弘、大谷昭宏(ジャーナリスト・TVコメンテーター)、宮崎学(作家)、各界の挨拶など行う。参加してみませんか。

編集後記

私たちも、三宅島で高校生と一緒にボランティア活動をさせていただき、その際に島の方にはたいへんお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

滞在中、徐々に進む復興と同時に目にしたのは、高濃度地区の荒れた家々でした。

すべての島民がもとの生活ができるよう心から応援しつつ、新報の作成も続けていきます。

(DTPA一同)

新報に関する意見を事務局までお寄せください。